

家畜衛生広報いいだ

長野県飯田家畜保健衛生所
飯伊家畜畜産物衛生指導協会
TEL : 0265-53-0439, 0440
FAX : 0265-53-0441
E-mail : iidakachiku@pref.nagano.lg.jp
http://www.pref.nagano.lg.jp/iidakachiku/

R1(2019)12.26 発行 2019_No.15

CSF 侵入防止対策の再徹底をお願いします。

(CSF ワクチンを接種してもCSF 発生リスクは無くなりません)

11月2日及び26日にCSF ワクチンを接種した愛知県の農場で、12月17日にCSF 患畜が確認されました。
ワクチン接種をしても発生リスクがゼロになる訳ではありません。
CSF ウイルスを農場内に入れないように、引き続き侵入防止対策を徹底して下さい。

ワクチンを接種した農場で、何故CSFが発生するのか……!?

1 ワクチンブレイクがある (図1 参照)

子豚は、親から初乳により移行抗体を獲得します。この移行抗体は徐々に消失していきませんが、まだ高い時期に子豚にワクチンを接種しても効果はありません。したがって移行抗体が十分に下がった時期に接種する必要があります。

しかし子豚が獲得する移行抗体価は、各種要因により一定ではないため、ワクチンを接種したときに高い移行抗体を保有していた子豚はワクチンによる抗体が付与されません。

2 免疫の空白期間 (図1 参照)

ならば子豚へのワクチン接種時期を遅らせれば確かかといえば、そうではありません。

移行抗体が消失してしまうとワクチン接種による抗体が上昇するまでの期間に感染する恐れがあります。

3 ワクチン抗体価は正規分布する (図2 参照)

一般的に動物群におけるワクチン抗体価は正規分布を示し、CSFにおいてもワクチンを接種しても10%程度の豚で抗体価が上がらないというデータがあります。

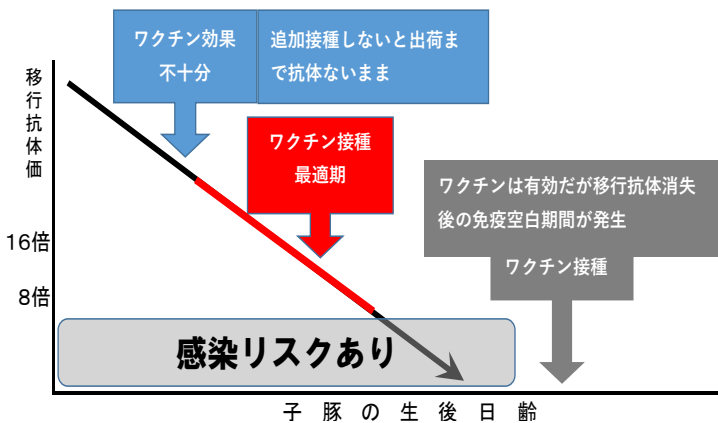


図1 子豚の移行抗体の推移とワクチン接種

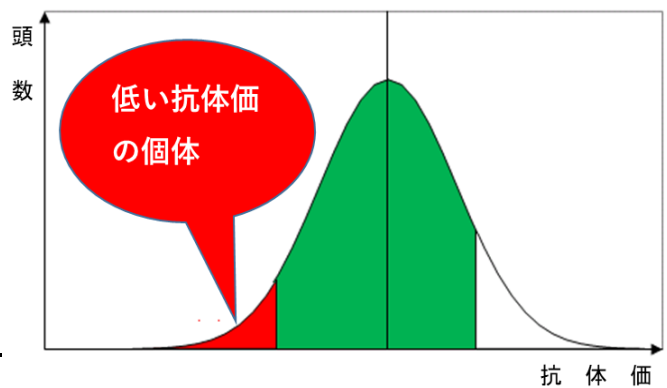


図2 正規分布曲線

注意!! CSFに感染した野生イノシシが農場周辺に…!

本年9月以降、南信州地域で陽性イノシシが9月に3頭、10月に3頭、11月に7頭、12月に12頭確認されています。

CSF 侵入防止対策の継続をお願いします。



しあわせ信州

しあわせ信州創造プラン2.0 (長野県総合5か年計画)

～学びと自治の力で拓く新時代～